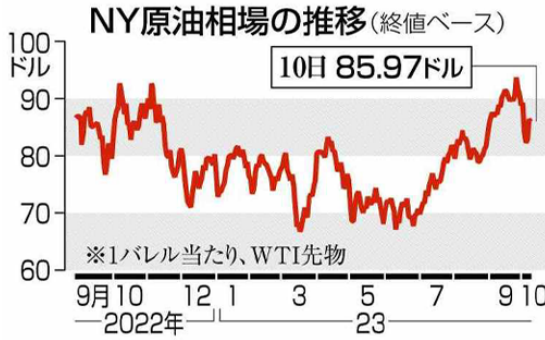




年 組 名前



【ロンドン共同】イスラエル軍とイスラム組織ハマスが交戦するなど中東情勢の悪化を受け、落ち着きを見せていた原油価格が再び上昇傾向にある。中東産油

中東情勢悪化で原油上昇

供給不安に市場警戒

国などからの供給不安が強まったことが要因だ。市場関係者には、ハマスの支援が取り沙汰されるイランを巡る情勢次第では、さらなる供給不安につながるとの警戒感もくすぶる。

7日のハマスによる多数のロケット弾発射を受け、国際指標となるニューヨーク原油先物相場は週明け9日に前週末比3・59ドル高の1バレル86・38ドルと大幅上昇し、10日終値も86ドル近辺を付けた。9月28日に一時95ドルまで高騰した原油価格は前週後半には終値ベースで82ドル台まで下落したが、再

び反転基調に揺り戻しが起きかねない様相だ。

今回のロケット弾発射が1973年10月の第4次中東戦争勃発から50年のタイミングと重なり、第1次オイルショックに発展した歴史的な経緯が意識されやすかったことも関係したようだ。

市場が警戒するのが、原油輸送の大動脈であるホルムズ海峡に面するイランを巡る動きだ。米国はイランがハマスの軍事行動を陰で支援しているとの疑いを抱いているとみられる。対イラン制裁強化の展開となれば、イラン側が対抗措置として海峡交通を制限しかねないとの見立てだ。当面は、中東情勢を意識した相場展開が続くそう。

2023年 10月12日(木) 朝刊 全道版 10ページ (記事は再編集しています)

① 落ち着きを見せていた原油価格が再び上昇傾向にある理由は何か、記事の中から読み取って書きましょう。

② 市場が警戒しているホルムズ海峡を巡る動きについて、具体的に書きましょう。